

= 知らんけど(笑)⇒信念もって =

年末・年始のお休みで帰省。新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いているうちに何をしようかと悩んでいたら、考えるまでもなく、お仕事いただきました。まずは、庭の掃除と網戸洗い、ちっちゃいけれど2つの花壇とプランターの土の入れ替え、お花の植え替え28株なり。それらを終えて奥方の愛車の洗車…何とかこなしました。

大みそかの午前中は、予約していたおせちの受け取り、そして濡れ落ち葉ならぬ、奥方の買い物のお供・荷物持ち。単身赴任の身だからこそ、日頃の詫びにと早め早めの行動で、テキパキと動いているつもりが、買い物かごにいらぬものを入れすぎ、いつもの小言。これで、我が家は正月を迎えられるのである。

年が明ければ寝正月、とはいかず、三社参り。3つの神社を参拝。ご利益は参拝する神社によって異なるが、3つ周る分だけご利益は多くいただけそうな気がする。家内安全は毎年事だが、今年はちょうど三つの願いがピタリとはまった。一つ、コロナと災害に「勝つ」。二つは、AP22春季取り組みで現場の活力の源を競り「勝つ」、三つは、7月の参議院議員選挙・村田きょうこ、必ず「勝つ」。神様はきっとかなえてくれるだろう。かなえてほしい、叶えてください…。

そんな語尾の使い方次第ですべてが、えっ！、てなる話題が今年の暮れに盛り上がった。関西方面で使われるらしい言葉、「知らんけど」。何のことやらと思っていたが、よくよく考えると大阪の奥様がよく使われている（テレビでしか見たことないが）。

YAHOO で調べてみると、「自分の見解に責任は持てない」旨を添える意味で用いられる言い回しと言う。断言したり、人に勧めたりしながらも、最後に「知らんけど」と言って結びの言葉とする。一通りしゃべってから、信ぴょう性が低い事柄や個人によって判断の分かれる事柄について断言を避けるニュアンスを追加する表現。お笑いコンビの「かまいたち」の冠番組でも題名に。

- ・楽しかったらええんちゃうの、知らんけど。
- ・これだけ持ってけば足りるでしょ、知らんけど。
- ・こうして文化が廃れていくんやな～、知らんけど。
- ・冷蔵庫入れとかなあかんのちゃう？知らんけど。
- ・グミを炭酸水に一日つけるとおいしいらしいで、知らんけど。
- ・こんだけ並べたらみんな笑うやろ、知らんけど（神田作）。

なんか面白い。が、笑い話ならいいけれど、国会議員の皆さんが使ったら話にならない。だがどうも、昨今耳に聞こえはしないが、言葉の端々に「知らんけど」が見え隠れする。

社会正義を貫いてこそそのバッジじゃないの。頼むでほんま！

お屠蘇気分で書き連ねたが、さて、寅年の今年はどんな年になるのだろうか。

まず、寅だけに勇猛果敢で周りを見渡す力があるということから、問題が明瞭になりやすいとされる。「寅」という漢字は「演」からきているとも。「演」と聞いて連想されるのは、「演じる」ということ。そしてこの「演」の語源である「延（えん）」をも表すとされていることから、「演＝人の前に立つ」そして、「延ばす」ということから、「寅年」は成長していく年という。これから成長する物事の象徴が生まれる年ともいわれている。ならば、わが『村田きょうこ』とその仲間たちの勝負にふさわしい年ということになる、よっしゃー。

ただ一つ、個人的に気になるものを見つけた。虎は象の群れから逃れるため、竹やぶに身を潜めたとの言い伝えから、水墨画や屏風絵などで「虎と笹」はセットで描かれることが多い。「ささ」と読むこともある「酒」。酒と笹とを掛けて、酔っぱらうことを虎になる、泥酔して人を大虎…。

なんかドキッとするが、酒は飲んでも吞まれない年となるはずや、知らんけど（笑）。  
どうぞ、今年もよろしく。 ご安全に